

森記念財団都市戦略研究所：連続シンポジウム 第1回

都市の魅力

持続可能で魅力的な国土形成を目指して

参加費 **無料**
定員 **100名**

要申込、先着順

日時

5月30日(月)

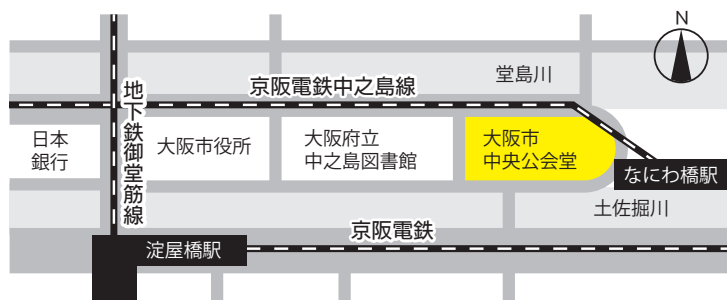
13:30-15:30 (13:00開場)

会場

大阪市中央公会堂

大阪市北区中之島1-1-27

<https://osaka-chuokokaido.jp/>



● 登壇者



明治大学名誉教授
市川 宏雄



大阪公立大学大学院
工学研究科都市系専攻教授
嘉名 光市



大阪公立大学
研究推進機構特別教授
橋爪 紳也

参加申し込み ▶

<https://forms.gle/GN3ox7VvMhY66We6A>



お問い合わせ ▶

iusall@mori-m-foundation.or.jp

※会場ではマスクの着用をお願いいたします。会場でのソーシャルディスタンスの確保などにご協力をお願いいたします。新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況によっては完全オンライン開催に変更になる場合もございます。その場合、申込時のメールアドレスに ZOOM URL をご案内いたします。

主催：森記念財団 都市戦略研究所

後援：大阪府、大阪市

● 趣旨・目的

世界の総人口が今後も増加を続けていくと予測されている一方、日本では少子高齢化および急速な人口減少が見込まれている。そのような状況に直面してもなお、日本全体が活力を保ち続けるためには、各都市がそれぞれの“特性”を活かしながら都市づくりを進め、人や企業を惹きつける「磁力」と、魅力や強みを継続的に発揮し続ける「発展性」を維持していかなければならない。そのためには、各都市が現在の都市の魅力や、歴史的・文化的・地理的なコンテキストも含めて客観的に把握した上で、次の時代に向けた都市戦略を立案し、

実行に移していくことが求められる。

そこで、当連続シンポジウムの第1回は、経済・ビジネスや文化・交流、交通アクセスなどの分野で圧倒的な強みを有するものの、生活・居住や環境分野で課題を抱えている関西の中心都市・大阪で開催し、2025年の大阪・関西万博とその後に向けてどのような都市戦略で日本全体に活力をもたらししていくべきなのかについて、大阪で活躍されている都市の専門家とともに様々な側面から議論する。

● スケジュール

🕒 13:30-14:00

市川 宏雄

「日本の都市特性評価 2021」
によって明らかになった大阪
市の魅力と課題

🕒 14:00-14:30

橋爪 紳也・嘉名 光市

大阪市の魅力と課題、過去・
現在・未来を見据えて魅力を
伸ばすための施策は何か

🕒 14:30-15:15

パネルディスカッション

課題を解決するためにすべき
ことは何か、各アクターの
役割とは

🕒 15:15-15:30

質疑応答

● 登壇者略歴

市川 宏雄

明治大学名誉教授。東京の本郷に1947年に生まれ育つ。都立小石川高校、早稲田大学理工学部建築学科、同大学院修士課程、博士課程(都市計画)を経て、カナダ政府留学生として、カナダ都市計画の権威であるウォータールー大学大学院博士課程(都市地域計画)を修了(Ph.D.)。一級建築士でもある。

ODAのシンクタンク(財)国際開発センターなどを経て、富士総合研究所(現、みずほリサーチ&テクノロジーズ)主席研究員の後、1997年に明治大学政治経済学部教授(都市政策)。都市工学出身でありながら、政治学科で都市政策の講座を担当するという、日本では数少ない学際分野の実践者。2004年から明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科長、ならびにこの間に明治大学専門職大学院長、明治大学危機管理研究センター所長を歴任。

現在は、日本危機管理防災学会・会長、日本テレワーク学会・会長、大都市政策研究機構・理事長、日本危機管理理士機構・理事長、森記念財団都市戦略研究所・業務理事、町田市・未来づくり研究所長、Steering Board Member of Future of Urban Development and Services Committee, World Economic Forum(ダボス会議)in Switzerlandなど、要職多数。

橋爪 紳也

大阪公立大学研究推進機構特別教授、大阪公立大学観光産業戦略研究所所長。

昭和35年大阪生まれ。京都大学工学部建築学科卒業、同大学院工学研究科修士課程、大阪大学大学院工学研究科博士課程修了。建築史・都市文化論専攻。工学博士。

創造都市や都市文化施設、盛り場や商業施設に関わる総合的な研究を展開。また各地で観光政策の立案、市民参加型のまちづくり、地域ブランディング、イベントプロデュースを実践。

大阪府特別顧問、大阪市特別顧問、イベント学会副会長、IRゲーミング学会副会長。大阪商工会議所都市活性化委員会副委員長、大阪商工会議所ツーリズム振興委員会副委員長、彦根商工会議所顧問、大阪市都市計画審議会会長、大阪府市文化振興会議会長などを兼職。2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)の誘致計画にあってキーパーソンとして活躍。

『集客都市』『モダン都市の誕生』『飛行機と想像力』『にっぽん電化史』『大大阪モダンイズム遊覧』『大阪万博の戦後史』ほか著書は100冊以上。

ディスプレイデザイン研究大賞、大阪活力グランプリ特別賞、日本観光研究学会賞、日本建築学会賞、日本都市計画学会石川賞ほか受賞。

嘉名 光市

大阪公立大学大学院工学研究科都市系専攻教授。1968年大阪生まれ。2001年東京工業大学大学院博士後期課程修了。博士(工学)。技術士(都市及び地方計画)、一級建築士。シンクタンク研究員を経て、2003年大阪市立大学講師、2017年4月より教授。2022年4月から大阪公立大学教授。専門は都市計画、都市デザイン、景観デザイン、エリアマネジメント。主に京阪神を中心とした都市計画や都市再生デザインの実践的取り組みに関わる。代表的な取り組みとして、水都大阪の再生、御堂筋空間再編、神戸市都心・三宮の再整備、枚方市駅周辺まちづくり、堺市中百舌鳥周辺まちづくりなど。

国土交通省「多様なニーズに応える道路空間」のあり方に関する検討会委員、大阪市都市景観委員会委員長、堺市都市計画審議会会長、神戸市都市計画審議会委員ほか多数。著書に『生きた景観マネジメント』(鹿島出版会)(編著)、『景観計画の実践』(森北出版)(共著)、『都市を変える水辺アクション:実践ガイド』(学芸出版社)(編著)ほか。主な受賞に、日本都市計画学会石川賞(2015年)『水都大阪のまちづくり』(共同受賞)、2017年日本建築学会賞(業績)『大阪市「生きた建築ミュージアム事業」による建築文化の振興』(共同受賞)。